

新約聖書の中の祈り 第4回

□「祈り」に関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「新約聖書の中の祈り」のアウトライン

1. イエスの祈り
2. 福音書における他の祈り
3. 使徒の働きにおける祈り
4. 書簡における祈り

□「イエスの祈り」のアウトライン

福音書の中から、イエスの祈りについて22の事例を取り上げ、それぞれに祈りの場所や時間、そのときの姿勢、祈りの内容、そして祈りがどのように答えられ、どのような出来事につながっていったか、などを見ていきます。

1. 洗礼を受けたときの祈り
2. 第一のメシア的奇跡をはさんでの祈り
3. 十二使徒を選んだときの祈り
4. 五千人の給食を前にしての祈り
5. 五千人の給食の後の祈り
6. 四千人の給食のときの祈り
7. ペテロの信仰告白を前にしての祈り
8. イエスの変貌のときの祈り
9. 70人の弟子が帰ってきたときの祈り
10. 「主の祈り」に先立つ祈り
11. 子どもたちを祝福したときの祈り
12. ラザロのよみがえりのときの祈り
13. ギリシヤ人がイエスに面会を求めたときの祈り

14. 最後の過越の食事での祈り
15. 最後の過越の食事の間での ペテロのための祈りへの言及
16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り
17. 大祭司としての祈り
18. ゲッセマネにおける祈り
19. 差し控えられた祈りについての言及
20. 十字架からの祈り
21. エマオにおける祈り
22. 昇天を前にしての祈り

以上の 22 の事例の祈りを全体的に眺めると、イエスの祈りについて 24 のポイントを挙げることができます。これが「イエスの祈り」についての学びの結論部分になります。24 のポイントは、次のとおりです。

1. イエスは、しばしば、一人になって祈るようにしていた。
2. イエスが祈りをした時間帯は、さまざまである。朝であったり、夕であったりである。
3. イエスが祈りをしたときの姿勢も、さまざまである。立って、ひざまずいて、あるいは顔を地面につけて、天を見上げて、というように。
4. イエスの祈りは、しばしば、重要なターニングポイントとなる出来事の直前に祈られている。
5. イエスは、大いなるみわざをするときにも祈った。
6. イエスは、プレッシャーを受けたときにも祈った。
7. イエスは、悲しみのときにも祈った。
8. イエスは、死の直前にも祈った。
9. イエスは、とりなしの祈りをした。ペテロのため、イエスを十字架に釘付けにした兵士たちのため。
10. イエスの祈りの時間は、長短さまざまであった。夜通しや、1時間など。
11. イエスは、父なる神に対して祈った。誰に祈るのか、父なる神である。
12. 祈りのタイプはさまざまである。請願、祝福、感謝、とりなし。
13. イエスは、聖霊に満たされ、喜びにあふれて祈ったことがあった。
14. イエスは、「祈りの本」によらずに、その時その場、自分のことばで祈った。
15. イエスは自分の感情が大きく動く中で祈ったことがあった。
16. イエスは、個人的にも公けにも祈った。
17. イエスは、ほとんどの場合、信者のために祈った。不信者のための祈りは稀である。
18. イエスが祈る動機の中には、神の栄光を含んでいた。そして、私たち自身と他の人々の霊的に益となることを含んでいた。
19. イエスの祈りは、漠然としてはいなかった。誰のために何を祈り求めるのか、はっきりとしていた。
20. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、その理由を明確にした。

21. イエスの祈りは、誰かと対話しているような調子であった。
22. イエスは自分の祈りがすべて聞かれているという確信をもっていた。その一方で、祈りの中で求めたことが、すべてそのとおりに答えられたというわけではない（マタイ 26：36～46）
23. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときには、父なる神のみこころにかなうのであれば、という条件付きで求めた。
24. イエスは、祈りの中で何かを願い求めるときに、その願いを繰り返し言うことがあった。

□本日の事例 14 番から 16 番まで

14. 最後の過越の食事での祈り

- (1) マタイ 26：26～29
- (2) 祈りの内容
 - ① 26 節 イエスは、パンを祝福した。
 - ② 27 節 イエスは、杯（第三・ぶどう酒）について、感謝をささげた。
- (3) マルコ 14：22～25 マタイと同じ内容
- (4) ルカ 22：14～20 イエスは、杯（第一・ぶどう酒、17 節）とパン（19 節）の両方について感謝をささげた（注：20 節は、第三の杯）。
- (5) この祈りは、過越の食事を守るときユダヤ人たちが行う標準的な祝福の祈りである。ここでは、イエスご自身も、ユダヤ人たちが通常用いる定型的・儀式的な祈りをしておられる。

15. 最後の過越の食事の間での ペテロのための祈りへの言及

- (1) ルカ 22：31～32
- (2) この祈りの特徴
 - ① 32 節 「わたしは、あなたのために祈りました」 イエスは、前もってペテロのために祈っていたことを、この食事のときに、ペテロに語った。
 - ② 祈りの種類： 32 節 「あなたのために」 ペテロのための請願、とりなしの祈りであった。それは、イエスの深い洞察から発したものであった。31 節 「シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいをかけることを願って聞き届けられました。」
 - ③ 祈りの内容： 32 節 「あなたの信仰がなくならないように」 ペテロの信仰がなくならないようにという願いであった。
 - ④ 祈りの結果：ペテロは確かにこのあと躓いた。しかしイエスの祈りのおかげで、取り返しがつかないほどに信仰から落ちてしまうことには、ならなかった。イエスの祈りは、ペテロ個人の霊的な安全を保障した。
 - ⑤ まとめ：イエスは、最後の過越の食事をする前に、ペテロのためにとりなし

の祈りをしていた。この祈りにより、ペテロは立ち直り、兄弟たちを力づける（ルカ 22 : 32）ことができた。

16. 将来、聖霊が信者の内に住んでくださることについての祈り

(1) ヨハネ 14 : 16~17

(2) 聖霊が信者の内に住んでくださること=聖霊の内住

① ヨハネ 16 : 7

② 「イエスが去っていかなければ、助け主はあなたがたのところに来ない」

③ 「イエスが去る」とは、イエスが天にいったん帰ること。イエスの昇天は、イエスが十字架上で死を遂げ、そして父なる神がイエスを復活させたあとに、起きる。

④ よって、十字架前のこの時点では、まだ聖霊の内住は起きない。聖霊の内住は、将来のことである。

(3) この祈りの特徴

① ヨハネ 14 : 16 「わたしは父にお願いします」。このことばの時制は、未来形。よって直訳は「わたしは（今ではなく、先で）父に祈るであろう」。イエスは、今ではなく、未来に祈るであろうと約束してくださった。

② 祈りの対象：父なる神

③ 祈りの内容：父なる神が御霊を弟子たちに遣わしてくださるように。それは、御霊が「もうひとりの助け主（慰めるお方）」として弟子たちのためにお働きになるためである。

④ ヨハネ 16 : 7 「もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします」 イエスが祈る、すると父はその祈りに答えて聖霊を遣わしてくださる。イエスが祈ることで父なる神が聖霊を遣わすので、イエスが聖霊を遣わすとも言える。祈りが神のご計画を動かすことの一例である。

(4) 聖霊の内住の約束

① 16 節 「その方は、あなたがたとともにおられます、いつまでも」

② 17 節 「その方は、あなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられる（未来形）」

③ 聖霊は、信者を助ける（慰める）ためだけに来られるのではなく、信者の内に住み、信者とともにいるために来られる。しかも、その内住は、いったん始まったら、信者の側に何があったとしても聖霊は離れることはない。その意味において、「いつまでも」である。これは、信者の救いは、いったん救われたなら、決して失われることがないという「救いの永遠の保証」をも意味する。

補足：ペテロへの予告と、ペテロがイエスを三度知らないと言うことについて

1. ペテロへの予告は、3回にわたった

(1) 過越の食事のとき、ユダが出て行き（ヨハネ 13：30）、第三の杯【新しい契約】（マタ 26：27～29、マルコ 14：23～25、ルカ 22：20、I コリ 11：25～26）が弟子たちに与えられた後

① ルカ 22：24～27 偉大さについてイエスの教え。食事の中で、弟子たちの間では、誰が一番偉いだろうかという議論が起きていた。それについて、ここでイエスが教えた。

② ルカ 22：28～30 イエスは、使徒たちにメシアの王国での地位を約束した。

③ これに続いて、ルカ 22：31～38 で、ペテロの否認についての予告①がされた。この箇所の中に、本日のイエスの祈りの事例 15 番がある。

④ ヨハネ 13：31～36 では、ユダが出て行ったことに関連して、イエスが「今こそ人の子は栄光を受けました。また神は人の子によって栄光をお受けになりました。」と言われた。メシアとして使命を達成する時が来たことを告げる内容。これに関連して、イエスはペテロに「わたしが行く所に、あなたは、今
はついて来ることができません。」と言われた。

⑤ ヨハネ 13：37～38 ペテロが「あなたのためにはいのちも捨てます」と言ったことに対して、イエスはペテロの否認についての予告②をした。

(2) 賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけていったとき（マタ 26：30～35、マルコ 14：26～31）・・・ペテロの否認についての予告③ このときは、ペテロを含む 11 人の使徒たちが全員、イエスと運命を共にすると言った。

2. しかし、イエスがゲッセマネで逮捕される時、弟子たちはみな逃げた

(1) ペテロは剣を抜いて、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした（マタ 26：51、マルコ 14：47）。イエスはそれをやめさせ、その者の耳をいやされた（ルカ 22：50～51）。

(2) 弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げた（マタ 26：56、マルコ 14：50）

3. ペテロの否認は、3つの場所で起きた

(1) 大祭司の屋敷の門のところで（ヨハネ 18：15～17）

① シモン・ペテロともう一人の弟子（ヨハネ）はイエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いで、イエスといっしょに大祭司の中庭に入った。

② しかし、ペテロは外の門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いであるもう一人の弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを連れて入った。すると、門番のはしためがペテロに、「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね」と言った。ペテロは、「そんな者ではない」と言った。

(2) 屋敷の中庭（下の庭）で

① ペテロは遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まで入って行き、

役人たちといっしょにすわった (マタ 26 : 58)。

- ② ペテロが中庭 (下の庭) に座っていると、女中のひとりが、火あかりの中にペテロが座っているのを見つけ、まじまじと見て、来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」しかし、ペテロはそれをみなの前でそれを打ち消して「いいえ、私はあの人を知りません。何を言っているのか、私にはわからない。」と言った (マタ 26 : 69~70、マルコ 14 : 66~68、ルカ 22 : 54~57)。
- ③ シモン・ペテロは立って、暖まっていた。すると、人々は彼に言った。「あなたもあの人の子弟ではないでしょうね。」 ペテロは否定して、「そんな者ではない」と言った (ヨハネ 18 : 25)。
- ④ しばらくして、ほかの男が彼を見て、「あなたも彼らの仲間だ」と言った。しかしペテロは、「いや、違います」と言った (ルカ 22 : 58)。
- ⑤ 大祭司のしもべのひとりで、ペテロに耳を切り落とされた人の親類に当たる者が言った。「私が見なかったとでもいうのですか。あなたは園であの人といっしょにいました。」それで、ペテロはもう一度否定した。するとすぐ鶏が鳴いた (ヨハネ 18 : 26~27) 一番鶏=午前0時

(3) 中庭の出入り口のところで

- ① そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」それで、ペテロは、またもそれを打ち消して、誓って、「そんな人は知らない」と言った。 (マタ 26 : 71~72)
- ② しばらくすると (ルカ 22 : 59 「それから1時間ほどたつと」)、最初の女中がまたペテロを見て、そばにいた人たちに「この人はあの仲間です」と言い出した。ペテロは再び打ち消した (マルコ 14 : 69~70a)。そのあたりに立っている人々や別の男がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる」と言った。すると彼は、「そんな人は知らない」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が二度目に鳴いた (マタ 26 : 73~74、マルコ 14 : 70b~72a、ルカ 22 : 59~60) 二番鶏=午前3時
- ③ 主が振り向いてペテロを見つめられた (ルカ 22 : 61a)
- ④ そこで、ペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたはわたしを知らないと三度言います」とイエスが言われたおことばを思い出した (マタ 26 : 75、マルコ 14 : 72b、ルカ 22 : 61b)
- ⑤ そうして、彼は出て行って、激しく泣いた (マタ 26 : 75、マルコ 14 : 72c、ルカ 22 : 62)